

ただいま、卒業証書を授与された272名の皆さん、卒業おめでとうございます。
本日、橋高等学校第72回卒業証書授与式を皆様のご協力により実施できますこと、
校長として感慨深いものがあり、また安堵しております。

保護者の皆様、ご家族の皆様には、今日の日を楽しみにしておられたと存じますが、
1家族1名の出席にご理解をいただき、また、感染症対策にご協力いただいております
ことに深く感謝申しあげます。そして、本日ご来賓としてご臨席いただきました、
同窓会長の坪井様、PTA会長の遠藤様、誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん。皆さんの学年から、大学入試においては英語民間試験の活用や
共通テストにおける記述式導入などの改革が実施される方針が示され、本校としても
入学時からその対策に十分時間をかけてきました。しかし、皆さんが二年生の後半を
迎えた時期に改革の見送りが表明され、新型コロナウイルス感染症拡大とも相まって、
大きな混乱の中、大学入試の本番を迎えることとなりました。

このような状況にあっても、皆さんは目標を見失わず、学年や教科の先生方とともに、
地に足をつけ、動じることなく目標に向かって突き進んできました。校長は、その様子
を見守ることしかできませんが、その真摯な、けなげな姿勢には、常に心打たれるもの
がありました。

私はこの混乱の一番の被害者である皆さんの姿を見ながら、この混乱を
招いた理由・原因は何かと考えずにはられませんでした。

この場で、それらに言及する事はふさわしくありませんが、、、

卒業生の皆さん。

高等学校を巣立ち、有権者、そして大人として社会に飛び出す皆さんに
ぜひ伝えたいことがあります。

政治が悪いというなら政治を変えましょう。行政に関心を持って意見を言きましょう。
社会がこうなってほしいと思うなら、小さな一歩でもできることから行動しましょう！

東日本大震災・原子力災害事故からまもなく10年を迎えます。この間、日本列島は
多くの自然災害に見舞われ、私たちを試すように次々と試練が課されてきました。

困難にあったとき、できない理由を探すのではなく、できる方法を考えて前に進んで
いくのです。ぜひ声を上げ、行動してほしいと思います。

今日、この場に出席できなかった下級生達は、皆さんの門出を精一杯応援しようと、
卒業生を送る飾り付けをしてくれました。

「君ならできる」「人生は冒険だ!」「明日はきっといい日になる」

皆さんを応援する沢山の言葉が並んでいます。

冒険は「ワクワク」するものです。ワクワクしながら何事にもトライし、楽しみながら、
皆さんが中心になってこれからの世の中を変えていってほしいと思っています。

健康に気をつけ、思う存分、目指す道を進んでください。

保護者の皆様、改めて、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

入学時とは比べものにならないほど、眩しく成長したお子様の姿はいかがでしょう。

高校での3年間は、心身共に大人へと成長する変化の大きい3年間です。

心と体のバランスが保たれているときばかりではなく、お子様の変化に戸惑われることも
多かったのではないかと思います。

私たちが育った頃と比較して、今の高校生達の方が数段意識や能力が高く、社会貢献や
これから自分がなすべき事を真剣に考えています。ただ、それらを形にしたり、
目指す道にたどり着くまでは、もう少し、いや、まだしばらくの時間がかかります。

今日は橋高校の卒業を祝いながら、これからもお子様を温かく見守り、
成長を楽しみにしていただきたいと思っております。

これまでの、本校の教育活動、PTA活動等へのご理解、ご支援、
誠にありがとうございました。

結びに、ご来賓の皆様にご挨拶申し上げます。卒業生の皆さん、保護者の皆様、
そして教職員を含めた橋高校に関わる全ての皆様のご健勝をお祈りし、
式辞といたします。